

## 第2回『子どもと大人の日本語習得と教育デザイン研究会』報告

- 日時：2021年3月7日（日） 12:30～16:20
- 場所：横浜国立大学 教育文化ホール大集会室

### ●プログラム

12:20～	受付開始	
12:30～	会長挨拶（橋本ゆかり先生）	
<b>■大人研究部門</b>		
12:35～ 12:55	谷津 裕子 （横浜国立大学大学院 修士2年）	初級教科書の「けど」「けれども」 「が」の指導法再考 —学習者の発話分析を通して—
12:55～ 13:15	陳 上元 （横浜国立大学大学院 修士2年）	中国人日本語学習者の名詞修飾節 構造の読解アプローチ —アイトラッキングを用いた解析—
13:15～ 13:35	馮 琪 （横浜国立大学大学院 修士2年）	「～てもらってもいいですか」表現 の機能に関する一考察 —中国語母語話者と日本語母語話者 の捉え方の比較を通して—
13:35～ 13:55	飯盛 みなみ ※当日欠席 （横浜国立大学 学部4年）	接続詞「ちなみに」の意味・用法 —語用論の観点から—
OB・OG紹介 / 休憩（20分）		
14:15～ 14:35	遠藤 太郎 （横浜国立大学 学部4年）	内言機能の意識的強化における読 解力の向上 —段階的シャドウリーディングの実 践—
<b>■子ども研究部門</b>		
14:35～ 14:55	合田 顕子 （横浜国立大学大学院 修士2年）	日系ブラジル人児童生徒の帰国後 の進路選択過程 —複線径路・等至性アプローチによ る分析—
14:55～ 15:15	根本 恵子 ※オンライン発表 （横浜国立大学大学院 修士2年）	外国にルーツを持つ子どもの支援 に関わる外国語補助員の役割 —横浜市の事例から—

休憩 (10分)		
15:25～ 15:45	劉 婕 (横浜国立大学大学院 修士2年)	外国につながる子どもの算数文章 題の解決支援 —割合を示す関係図による指導—
15:45～ 16:05	西 明音 ※事前に録画した発表動画を放映 (横浜国立大学 学部4年)	ダブルリミテッドにあるJSL児童に おける両言語リライト教材による 支援効果
指導講評および挨拶 (橋本ゆかり先生)		
記念撮影		

総合司会：會田篤敬

●発表時間：1つの発表につき、質疑応答を含み20分

●発表内容と報告

2021年3月7日に第2回『子どもと大人の日本語習得と教育デザイン研究会』が開催された。以下に本研究会の報告をまとめる。

研究会を始めるにあたり、橋本ゆかり先生(本研究会会長)からご挨拶を頂いた。昨年のコロナ渦で行われた教育、及びその状況下で橋本先生が感じてらっしゃったことに関してお話しいただいた。

その後、「大人研究部門」で3件の発表が行われた。谷津さんから、学習者の「けど」「けれども」「が」の使用に関する分析、及びそれを基にした初級教科書における指導法に関する提案に関する報告がなされた。陳さんからは、中国人日本語学習者が名詞修飾節構造を読解する際のアプローチに関して、アイトラッキングを用いて解析した検証結果が報告された。馮さんは、「～てもらってもいいですか」という表現の機能に関して、中国語母語話者と日本語母語話者の捉え方の比較分析した結果を報告された。次の発表者であった飯盛さんは、接続詞「ちなみに」の意味・用法を語用論の観点から分析した結果を発表する予定であったが、残念ながらこの日は欠席されていた。

この後に20分程の休憩がとられた。この休憩中に、OB・OG紹介が行われた。参加していた6名の修了生は、自己紹介に加え、修士論文で扱った研究テーマ、今現在の仕事、橋本先生との思い出等に関して話された。

20分の休憩後に「大人研究部門」で1件、「子ども研究部門」で2件の発表が行われた。大人研究部門では、遠藤さんより内言機能の意識的強化における読解力に関して、シャドウリーディングの実践研究した結果が報告された。子

ども研究部門では、はじめに合田さんが「日系ブラジル人児童生徒の帰国後の進路選択過程」を複線径路・等至性アプローチを用いて分析した結果を報告された。次に根本さんより、横浜市の事例を基に「外国にルーツを持つ子どもの支援に関わる外国語補助員の役割」を分析した結果の報告がなされた。

10分休憩をはさみ、「子ども研究部門」の発表が2件行われた。劉さんより、「割合を示す関係図による指導」に着目し、「外国につながる子どもの算数文章題の解決支援」を分析した内容が報告された。最後に、事前録画した発表動画を会場で放映するという形で、西さんの「ダブルリミテッドにあるJSL児童における両言語リライト教材による支援効果」を解析した結果が共有された。

どの発表もとても充実した内容であった。それだけではなく、発表後には、時間が大幅に過ぎてしまうほどの活発な質疑応答が卒業生、修了生、在校生間で行われ、大変充実した研究会となった。全ての発表が終了した後は、橋本先生より指導講評とご挨拶があった。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度の研究会終了後のように、懇親会を開くことはできなかった。しかし、限られた時間ではあったが、修了生、学部生、院生が交流することができた、とても貴重な機会であった。

(記録：會田篤敬)